

韓国、対日輸入ほぼ収束

廃バッテリー 11月、10年ぶり低水準 1639トン

韓国の日本からの廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）輸入がほぼ収束した。韓国関税庁がこのほど発表した貿易統計による

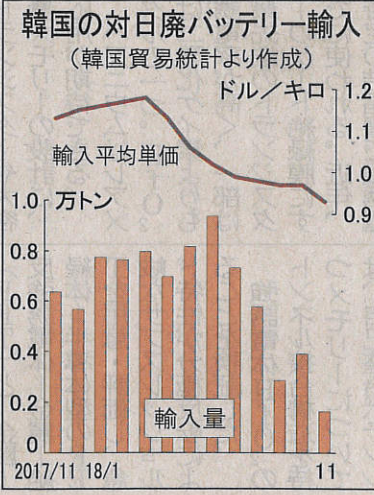
と、11月の対日輸入は前月比58%減の1639トンと、ここ10年間で最も少ない水準だった。日本側の輸出ライ

センス更新が全面的にストップした影響だが、一方で日本国内では荷余りと価格低下が顕著になっている。鉛二次精錬が盛んな韓国は、日本からリサイクル原料の廃バッテリーを大量に輸入し、

ピーク時には日本の国内発生量の半分と言われた。日本側で駆け込み輸出が発生した6月は9

れる月1万トンを超えた。ところが昨夏の法改正によって輸出承認審査の手続きが厳格化されると、日本側の輸出承認が止まり、1年期限の輸出ライセンスが順次失効していった。日本側で駆け込み輸出が発生した6月は9

371トンと高水準だったが、その後は月を追って対日輸入は減少。10月に3906トンと一時は増えたものの、11月は2000トンを下回った。これは韓国の廃バッテリー輸入が本格化する以前の2008年8月（1523トン）以来の少なさ。輸入平均



均価格は前月比キロ0.04が安の0.93で、これも1年11カ月ぶりの安値だった。なお、日本側の財務省貿易統計によれば、直近の10月の対韓国輸出は前月比44.3%減の1970トンと、すでに

キロ50円台まで下落。国内の一次製錬・二次精錬メーカーの購入量には上限があるため、今後も余剰バランスと市中相場安は続きそうだ。なお、韓国の11月の廃バッテリー総輸入量は前月比0.7%減の4万4823トン。主な輸入相手国と数量は、米国1万6186トン、UAE（アラブ首長国連邦）8125トン、イ

エメン3228トン、ドミニカ共和国2603トン、ニュージーランド1925トン、日本1639トン、シンガポール1381トン、パナマ1

289トン、カナダ1237トン、ガーナ1160トン。対米輸入は前月に続いて過去最多を更新し、減少した対日本からの輸入先シフトが鮮明になった。一時は月4000トン台まで落ちていた対UAE輸入も、17年1月以来の高水準まで回復。アフリカの対イエメン輸入からも過去最多に達するなど、全体数量をカバーするため調達を強化していた。対日輸入のシェアは3.7%となり、17年平均の21%から大きく低下した。